

今伝えたいことがある

5年生の部

11月3日に中央公民館で行われた第26回鞍手町「少年の主張」大会。町内の小学5・6年生、中学生の代表がそれぞれに自分の思いを主張しました。その中から最優秀賞に選ばれた3つの作品を紹介します。

主張した子どもたち(敬称略)

- 依藤 郁 (剣南小) ・命について
- 野田 未侑 (室木小) ・大切な命
- 田中美智子 (新延小) ・伝えたい永谷盆綱引き
- 満石 陽 (西川小) ・柔道から学ぶもの
- 下徳辺ころこ (剣北小) ・私の将来の夢
- 吉田 和代 (古月小) ・三月十一日の出来事



6年生の部

主張した子どもたち(敬称略)

- ・命ありて 都甲 晴 (剣南小)
- ・鞍手町や地域の行事を通して考えたこと 井ノ上翔太 (室木小)
- ・ラグビーから学んだこと 小田 航暉 (新延小)
- ・伝えられてきたこと、伝えるもの 小原 唯 (西川小)
- ・わたしにとっての6年1組 井上 芹加 (剣北小)
- ・川の中の小さな命 楠本 美幸 (古月小)



中学生の部

主張した子どもたち(敬称略)

- 水元ひろえ (鞍手北中1年) ・人間と動物の共生を
- 澄田 秀斗 (鞍手南中1年) ・不便さを感じない生活をするために
- 大村奈実希 (鞍手北中2年) ・東日本大震災の年に
- 阿部 悠太 (鞍手北中3年) ・私の中学校生活—今伝えたいこと—
- 平田 実 (鞍手南中3年) ・アタックNo.1





みつし ひなた
満石 陽さん
(西川小学校)

※緊張したけど発表しはじめたらリラックスできました。最優秀賞がとれてうれしかったです。

◎5年生の部 最優秀賞 柔道から学ぶもの

8月28日、北九州西地区少年柔道大会が行われました。私は、団体戦と、個人戦の選手に選ばれました。選手に選ばれたとき、「よしーがんばるぞ。」と思いました。

私は試合当日まで、練習を一生懸命がんばってきました。毎週3回、2時間の練習が終わると疲れはてぐったりします。次の日、学校で手や足が痛いこともよくあります。練習ではいつも、私は思いつき先輩に投げられます。でも、その投げられたくやしさを、力に変えて先輩を投げるときもあります。先輩を投げられたときは、とても気持ちがいいです。

いよいよ試合当日、それま

での練習の成果を見せる日です。体操などをして、体を温めたら開会式です。開会式が終わると、すぐに試合開始です。

まず、団体戦です。私たちのチームは、1回戦は勝って、2回戦では負けてしまいました。2回戦のとき、私が引き分けてしまったので、私のチームが負けてしまいました。くやしかったです。

次の個人戦では、そのくやしさを、ぶつけようと思いましたが、

「しゃーす。よしこい。」と言いました。審判の「はじめ。」の声と同時に始まりました。

まず、最初に私が投げられ、「技あり」というポイントを取られました。もう一つ「技あり」ととられる私は負けてしまいます。その後、私が「技あり」を取り返しました。そしてラスト13秒のとき、奇跡が起こりました。

「ラスト13秒。がんばれ。」とお父さんの声。そのとき、「いやーっ。」のかけ声とともに、「一本！」審判の声。

勝負の結果は私が勝ちました。私はギリギリ13秒で、岡くんを投げて勝ち、とてもうれしくて、思わず涙が出ました。

2回戦は、香月の高木さんです。高木さんは強い相手です。試合が始まりました。

私は、「いやーっ。」と投げましたが、ポイントになりませんでした。その後も何度も投げようとしたのですが、ポイントになりませんでした。そして、投げ技から押さえこまれ、逃げられずに負けてしまいました。私は、泣きながらお父さんのところに行きました。

「陽。がんばった。でも、寝技がまだまだだから、もっと寝技の練習をしなさい。でも、おしかったよ。」とお父さんに言われると、私はうなずきました。

メダルまでは、ほど遠いですが、あと少しで高木さんに勝つことができたので、もっともっとたくさん練習し、倒せるようになりたいです。

この柔道は、お父さんとおじいちゃんにすすめられて始めました。お父さんも、おじいちゃんも、私に大きな心と強い体を持った人になってほしい、と頑張って柔道をすすめてくれました。

私も、もっともっと練習をがんばって、もっともっと大きな心と強い体を持った人間になりたいです。

審査委員長(教育長)の講評

最優秀賞を見事獲得された3人のみなさん受賞おめでとう。優秀賞を受賞されたみなさん、審査結果は最優秀賞と僅少差でした。この大会に向けたみなさんの努力を大いに讃えます。

本年度の内容は、東日本大震災・命・伝統文化・スポーツ・環境問題など、しっかりした論旨で、自己を高めようとする意志が多くみられました。表現力や発表の態度もよく、訴える力は学年の発達段階に応じたものであり、多くの感銘を受けました。

今年も素晴らしい大会となりましたことを関係者各位に心から感謝します。



●6年生の部 最優秀賞 川の中の小さな命



くすもと みゆき
楠本 美幸さん
(古月小学校)

※主張を終えて…自分の順番が来る前まで、とても心臓がバクバクしていました。賞がとれるとは思わなかったので、とてもうれしかったです。

西川は、生き物が住めない川だった。私は、地域の方から、そう聞いて驚きました。西川は、きれいな川とは言えないけれど、魚や昆虫などが住んでいる普通の川としか思っていま

せんでした。鞍手は、昔、炭鉱で栄えた町だということは知っていました。でも、そのために、川が炭鉱施設から流れ出た水で黒くにごり、生き物が住めなくなっていたとは知りませんでした。昔は、川全体が黒く濁っていたので、「ドベタン川」とか「ぜんざい川」と呼ばれていたそうです。それから、50年ほど前に、炭鉱が閉山になり、少しずつ川が元の姿に戻っていったそうです。私は、どのように川がきれいになったのか興味を持

ち、インターネットで西川や遠賀川について調べてみました。すると、西川や遠賀川は、昔、鯉が上流まで戻ってくるような川だったということがわかりました。鯉は海で成長し、川の上流で卵を産むため、海から川を上ってきた。だから、きれいな川でないと鯉は川を上げません。また、そんな川に戻そうと、いろいろな取り組みをしている団体が77もあることもわかりました。そんな方たちの清掃活動などの努力で、西川もきれいになっていんだということがわかりました。そして、6年前には、西川で約70cmの鯉のつがいが発見されています。これも、鯉の稚魚の放流事業を行っている団体の成果だと思っています。私は、鯉が川を上る姿が見られる西川に

なっているんだなとわかってうれしくなりました。鞍手町は、筑豊炭田の一角として栄えたそうです。でも、石炭産業の面影は、今ほどこにもありません。自然豊かで、とても住みやすい町だと思っています。では、これからも、どんどん西川はきれいになっていくのでしょうか。私は、川のことを調べていると、残念ながらそうは思えなくなりました。最近、河川敷には、家庭ゴミをはじめ発泡スチロール、空き缶、バイク、自転車、テレビ、冷蔵庫などさまざまなゴミが不法投棄されています。私も、西川を通っているとき、自転車や川の中にあるのを見て、「こんなものが捨ててある。」とびっくりしたことがあります。これらのゴミは梅雨時期など大雨が降って洪水になるたびに遠賀川流域から河口に流され、河口堰に流れ着きます。だから、もちろん西川のゴミもそこに流れ着いているのです。そのゴミは、年間一千五百万円もお金を使って、回収し処理されているそうです。

生活排水や廃油の流出等に伴い、川の水が汚れ、遠賀川の水質は九州の一級河川中、なんとワースト1位となっているそうです。しかし、そんな川でも、魚類をはじめエビや貝、昆虫、鳥類などさまざまな生き物が今もお生息しています。でも、決して、住みやすい環境ではないと思います。河川敷や水辺に生育するヨシなどの水辺の植物は水質の悪化を防ぎ、さらに茎につく微生物によって水の汚れを分解する働きもあり、私たちのくらしと川にすむ生き物にとつて重要な役割を果たしているそうです。でも、私は、自然の力を頼っていても、川は決してきれいになるとは思いません。川を汚しているのが人間なら、川をきれいにするのも人間だと思えます。川の水質をきれいに保つことは、すべての命あるものにとつてとても大切なことなのです。炭鉱のために汚した川が、やっと鯉が戻ってこれるようなきれいな川になってきたのに、今度はゴミや生活排水で汚したくはありません。人間がゴミを捨てると、川が汚れ、魚たちがいなくなる。つまり、魚たちの小さな命を、私たちが奪っていき、命と私たちが共存していくために、ヨシなどの水辺の植物を有効に活用していくとともに、私たちの毎日のくらしの中で少しでも生活排水を減らせるように工夫していきましよう。今、私たちができることは、2つあると思います。まず、一つ目は、川などに生活ゴミを捨てることをやめ、テレビやコンロ等の不法投棄もやめることです。これは、

当たり前のことだし、絶対してはいけないことです。そして二つ目は、一人ひとりが汚れている川をきれいにする活動をするということです。今回調べてみて、自分たちの住む川をきれいにしようとしている人たちがたくさんいることがわかりました。また、川をきれいにするために、いろいろな活動が行われていることを知りました。

私の願いは、ゴミが少しでもなくなっていき、魚たちをはじめ小さな生き物たちが安全に過ごせる川にすることです。そのために、私も、これから川のゴミをなくしていく活動や、一人でも多くの人が川をきれいにしようと思ってくれる活動をしようと思えます。

みなさん、西川を鯉が戻ってくるような、そしていろいろな生き物がたくさんいるような、すてきな川に戻したいと思いませんか。私たちの町に流れる西川が、小さな命でさえ安心して生きられる川になるよう、みんなで行動していきましよう。

平

成21年4月、私は植木小学校から、この鞍手北中学校に入学しました。鞍手北中に入學すると決めたときは、友だちのいない学校に行く不安でいっぱいでした。あれから2年7か月、あと数か月で私の中学校生活も幕を閉じます。今ここで、私の中学校生活を通して多くの人の出会いやさまざまな出来事を振り返り、母校、鞍手北中学校で学んだことを心に刻んでおきたいと思います。

まず、私がなぜ鞍手北中への進学を決心したのかをお話します。私の住んでいる直方市植木には、植木中学校があります。植木中は、家から近いうえに、校舎も新しい、幼馴染は皆植木中に行くことが当たり前、それに比べて北中は、通うには遠くて不便、校舎もかなり古い、だからいつもどこかを修理している。教室に入ると40人くらいの人がいて、広い教室といえども、身動きがとれないほどだ。そんな北中への進学を敢えて決意したのは、どうしてか？そこを思い起こすことが、私の中学校生活での「学び」について振り返る原点だと思います。

私の父は、元々鞍手の生まれで、北中の卒業生であり、野球部の出身です。そんな父が、北中へのわが子の進学を望んだのも自然なことかもしれません。それに、顧問の先生が父の恩師である吉良先生であったこと。そしてなんと言っても私が、鞍手北中の野球部の練習を見に行

ったとき、北中の野球のレベルが高かったことが私の北中への進学を決めさせたのでした。しかし、入学して早々、私の不安は的中しました。まず回りに話す相手がいらないのです。誰が見ても落ち着かない不安な表情をしていたと思います。しかも、出席番号は「アベ」だから1番、先生方も新入生の様子があまりよくわからないので出席番号順に指名されたり、席もと

りあえず1番前なので突然質問されたりと常に臨戦態勢といった感じで緊張のとけない毎日でした。今だから正直に言いますが、本当に当時は学校に行くのが嫌でした。しかし、覚悟をして飛び込んだのだから投げ出すわけにはいきません。幸い5月のふれあい学級をはじめ、クラスマッチ、体育祭、文化祭と日々の学校生活を送る中で、新しい友だちもでき、徐々に北中生としての自覚を持てるようになりました。そして1年生の3学期には評議委員に立候補し、リーダーとしての活躍の場を自ら求めるまでに成長することができました。

一方、本来の目的である部活動では、1年生でベンチ入りをして、2年生でレギュラーをとり、3年生ではキャプテンを務め、まさにチームの要としての役割を果たすまでになったと自負しています。こう言えどもとても順調な道だったかのように聞こえますが、実はいいことばかりではなく、2年生のときには、野球人生における最大のスランプ

に陥り、何度打席に入っても打てない日々が続きました。練習試合や公式戦では、バットは空を切り、あたってもポテポテのゴロ。打てない、落ち込む、へこむ、どれくらい繰り返したことでしよう。しかし、自分はこの野球のために小学校時代の友だに別れを告げ、ここまで来たんだと自らに言い聞かせ、小遣いで野球の本を買っては、スランプ脱出のヒントを探し、これを乗り越えるためには練習しかないと言いつつ聞かせ、必死に練習に励みました。部活動を終えて家に帰っても何度も何度もバットを振り続けました。おそらく一日千回以上バットを振っていたと思います。そして、そんな努力が実ったのか突然打てるようになりまし。本当に「突然」といった感じでした。でも、このことは「突然」であっても決して「偶然」ではありません。

まさに毎日の練習の、努力の賜だと思えます。私はこのことを通じて「練習」は「努力」は「嘘をつかない」ということを学びました。

私がこの中学校生活で最もうれしかったのは、植木から来ている言わばよそ者の私をみんなが生徒会長にしてくれたことです。選挙で当選させてくれたこともそうだし、まずは形ばかり名ばかりの生徒会長をみんなが支えてくれ励ましてくれ、徐々に本来の役割を果たせるまでにしてくれました。そしてもうすぐその役割を終えようとしています。思えば私の鞍手北中での

中学校生活は多くの人に支えられ、励まされ背中を押された3年間でした。何事においても影になり、ひなたになり、支えてくれた両親、いつも優しく包んでくれた祖父母、スランプ時に励ましてくれたチームメイト、打てない私を根気強く使ってくれた監督、「生徒会長やってみなさいよ」と背中を押してくれた担任の先生。こうして一つ一つのことを思い返していくと、改めてこの「阿部悠太」という一人の人間がどれだけ多くの人たちに支えられ存在しているかということに気づかされます。

私たちはややもすれば、一人で生きているかのような思いあがった態度をとることがあります。でも、あなたの回りにいる人の顔や姿を思い浮かべてみてください。あなたが辛い思いを

しているとき、悲しい思いをしているとき、躊躇しているとき、あなたの思いを分かち合い一緒に涙を流し、温かく包んでくれ、励まし、ともに歩んでくれた人の顔が浮かびませんか？

私がこの鞍手北中学校で学んだ最も大切なことは「感謝の心」でした。今、私には一つの目標があります。それはこの場では言えませんが、私はその目標に向かって、一生懸命努力しています。そして必ずその目標を達成し、3年間支えてくれた「家族」「友だち」「先生」、この鞍手北中学校に、そして私の第二の故郷である鞍手町に恩返しをしたいと思えます。

●中学生の部 最優秀賞 私の中学校生活—今伝えたいこと—



あべ ゆうた
阿部 悠太さん

(鞍手北中学校3年)

※主張を終えて…発表の場、原稿作成を手伝ってくれた人たちに感謝。中学校生活を支えてくれた人たちに感謝。最優秀賞はとてうれしかったです。